



サフラン便り

第15号 17年6月15日発行

発行:佐賀県女性薬剤師会

佐賀市本庄町大字本庄 1269-1

TEL:0952-23-8931

FAX:0952-23-8941

<http://www8.ocn.ne.jp/saffron>

日本女性薬剤師会代議員会報告

近藤由利子会長あいさつ(抜粋) 5月21日(日女薬会館にて)

日薬の100年史を読んだところ、日薬や県薬は基本的に男性社会であった。そこで現代の女性の視点をも取り入れたさらに進んだ企画を推し進めていきたい。

薬学教育6年制に向け、実務実習の受け入れや既卒業の薬剤師を同じレベルに持っていくための対策。

薬局機能評価、組織と管理、法制度(ルール) 小児保健、高齢者介護保険、地域保険など県薬と連携をとりながら活動し、薬剤師としての質の向上を図る。

平成18年のアジア薬剤師大会の委員に女性では一人だけ近藤会長が委員になられたこと。

日薬の研修センターの理事に近藤会長がなられたこと。

報告事項 ・ガイドライン疾患別薬剤コース:16年度は1都6県の参加で1252名
(428名が後期のみ)の参加だった。

・性差医療、在宅医療に取り組んできた。

(報告 田中須磨代)

西方沖地震ボランティア活動について

もと鳥栖三養基支部S先生にインタビューしました。

(インタビュアー:T)

T:ボランティア活動のきっかけはなんだったのですか?

S:私は九大病院前の会営薬局に勤務していますので県の薬剤師会から要請があったからです。

T:どんな気持ちで参加されたのですか?

S:薬剤師が行ってなにができるのか疑問でした。

T:実際にはどういうことをされたのですか?

S:玄海町は小さな町で1人の主治医がほとんどの住民の薬を把握

されていました。非難先の九電体育館に仮設診療所ができ、調剤は近くの2件の個人薬局が行いました。

私は処方箋をチェックしてFAXし、投薬しました。3月でしたので当初はインフルエンザが流行し、タミフルの予防投与が全非難者に行われました。薬品の到着が待ち遠しかったです。

T:今後のアドバイスをお願い致します。

S:相談で「、医師にかかるまではないけどいつもの腹痛でセイロガンがあればいいんだけど・・・」といったこともありOTCの必要性を感じました。



非常時には調剤室以外での調剤が許可されます。調剤機器がない時は一円玉が1gであることを利用したり、分包製品を薬包紙に手包みで分けるなどの工夫やグリセリン瀉腸液を冬場の保湿剤として利用したり、イソジン液を希釈してガーグルとして使用する、など代替品の思いつきが必要です。忘れがちな生理用ナプキンの供給と処理は必須です。またトリアージの場面では頸動脈が触れるときは最低でも血圧が60mmHgあることなどのバイタルサインを知っておくことも必要と思います。今回は近くの薬局で調剤対応されましたが、いつ災害が発生するかもしれません。薬剤師として住民に貢献できるように薬局同士また問屋との連携、現場での活動と日ごろから問題意識を持っておきましょう。情報のやりとりには携帯電話でのメールが有効です。

《性差のある臨床検査の基準値》

日本女性薬剤師会 全国研修会資料より

(脂質)

検査項目	基準値・基準範囲。 標準値等	病的変動	性差に関連するコメント
総コレステロール T-Chol	150~220mg/dl(全般) * 日本人間ドック学会 データ(50歳以降) 170~230mg/dl 180~240mg/dl	家族性(a,)・散発性(b) 高コレステロール血症、糖尿病、 ネフローゼ症候群、甲状腺機能低下症 リポ蛋白欠損症、甲状腺機能亢進症、肝細胞障害、貧血、白血病、膠原病	思春期までは100~150mg/dlとほぼ一定 加齢と共に増加。男性は40歳代が最も高く、以後漸減傾向、女性は閉経後急速に増加し、60歳代でピーク、以後漸減(エストロゲンの関与による)
HDLコレステロール HDL-C	37~67mg/dl 40~71mg/dl	アルコール性高脂血症、CET P欠損症、原発性胆汁性肝硬変、 冠動脈硬化症、家族性LCAT 欠損症、無リポ蛋白血症、肥満	60歳以降では、男女共減少するが、 何れの年齢段階でも女性が男性より高値に位置している。
レプチン	2.5~4.2ng/ml 6.3~10.0ng/ml	肥満、妊娠、妊娠中毒症、絨毛性疾患、乳癌、慢性腎不全による透析患者、レプチン受容体遺伝子異常症 脂肪萎縮性糖尿病、神経性食思不振、飢餓、絶食、レプチン遺伝子異常症	体格指数BMIや体脂肪率と正の相関を示し、性、年齢、性的成熟度、妊娠時期等で異なる * レプチン分泌には、アドリゲンによる分泌促進が見られる

ちょっと一言

毎日の服薬指導をする中で、特に慢性疾患で長期服薬する意味を理解していない患者さんに出くわす事があります。その場ではよく理解しているつもりでも、日頃親しくしている友人や親戚に、薬を長期に飲んでいることをまるで中毒患者のように言われ、不安感いっぱいになり再び相談に来られます。そこで、私たち薬剤師は服薬の意味や副作用を説明するわけですが、薬以外のものも含めた真の不安感をしっかり受け止めなければならないと思います。それらを受け入れるだけの許容量を上げるためにも、薬学以外の人間学も学ばなければいけないと思います。(島田)

本年度佐賀県薬剤師会の会員に
なられました、北島悦子先生が定期的に
ラジオ番組に出演されます。次回は
6月20日(月)NBCラジオの5時45分から
情報ファイル佐賀というコーナーです。
是非お聴きください。



「服薬指導に役立つジェネリック医薬品 300 品目」

編集：日本女性薬剤師会会長 近藤由利子
監修：東邦大学医学部附属大森病院院長 小山信弥
日本女性薬剤師会全国研修会で配布されたCD-ROMです。
ご希望の方は事務局に申し込んでください

- * For the reduction of fever.
熱を下げます。
- * For the reduction of coughing.
咳を止めます。
- * For relieving nausea.
吐き気をおさえます。
- * For relieving diarrhea.
下痢を止めます。
- * As a tranquilizer.
イライラや興奮をしずめます。
- * For relieving itchiness
かゆみを止めます。